

／すぎなみ／ スタートカリキュラム

びとびと
タイム

教科の学びの
素地となる活動



なかよし
タイム

安心して遊び、
学びの芽を
育てる活動



わくわく
タイム

生活科を中心とした
合科的な活動



平成 29 年 1 月

子どもの育ちと学びをつなぐ

スタートカリキュラム

子どもたちは、新しく始まる小学校生活への期待感と環境の変化への緊張感を抱きながら入学していきます。遊びを通して学ぶ幼児教育から教科等の学習を中心に学ぶ小学校教育へ円滑に接続するために、これまで以上に、就学前教育施設と小学校のかかわり・協働を深めていくことが求められます。

そこで、幼児教育と小学校教育の段差をうまく乗り越え、子どもの育ちと学びをつなぐために、スタートカリキュラムを作成するとともに、幼児と児童の交流活動や保育者と小学校教員の連携、保護者への理解啓発等を積極的に進めていきます。



● 子供園・幼稚園・保育園等

5歳児10月

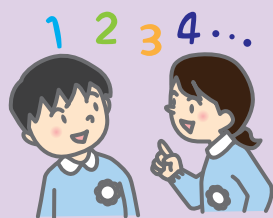
幼児教育修了

幼児教育

接続期前期



子どもの生活リズムに合わせた1日の流れ



「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域を総合的に学んでいく



遊びを通して総合的に学んでいくために工夫された環境構成

「人・もの・こと(事象)」とのかかわりを通じた体験から学ぶ

アプローチカリキュラム

人とのかかわり (協同・信頼・規範)

豊かな人間性につながる社会生活における望ましい習慣や態度、他人への思いやりや協同の精神などを育みます。

生活

(自律した生活の基礎・食育・運動)

健康・体力につながる基本的な生活習慣やすすんで運動をしようとする態度などを育てます。

学び

(思考・言葉・創造)

考えたり試したりする意欲、言葉の獲得、感じたことや考えたことを様々な方法で表現する力などを育てます。

幼児期における

学びの芽生え



接続期

アプローチカリキュラムとは…

就学前の幼児が、小学校の生活や学習の基礎となる力を身に付け、自信・期待・安心感をもって小学校に入学できるように工夫された5歳児後半の接続期カリキュラムです。

0(ゼロ)からの
スタートじゃない!

～幼児期の育ちと学びを踏まえて～

●子どもの育ちの姿や課題を保育者と小学校教員が共有します。

小学校教員は、就学前教育施設における子どもの実態を理解した上で、子どもに必要な共通体験が得られるように、学習内容と方法を工夫します。

保育者は、人やもの、こと(事象)との直接的・間接的なかわりを通して学ぶなど、子どもに安心感が生まれ、自信をもって成長できるように、自立につながる支援・指導を進めていきます。

●子どもの発達や学びの連続性を見通し、幼保・小の教育・保育をつなげます。

小学校教員は、就学前教育の遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、子どもが主体性を発揮し、新しい学校生活を創り出していけるように、学びの連続性を見通した指導を行います。

保育者は、小学校教育の内容の深さや広がりをも十分に理解した上で、今の学びがどのように育っていくのかを見通して、日常の教育・保育を行っています。

小学校入学

1年生7月

● 小学校

接続期後期

小学校教育

スタートカリキュラム

なかよしタイム

(安心して遊び、学びの芽を育てる活動)

子供園・幼稚園・保育園等の生活に近い活動を取り入れ、関係づくりをするなど、安心して学校生活を送ることができます。

わくわくタイム

(生活科を中心とした合科的な学習)

生活科を中心とした合科的な学習を進め、総合的・体験的な活動を通して、学びに向かう力を育みます。

ぐんぐんタイム

(教科の学びの素地となる活動)

安心して自ら学びを広げられるように学習環境を整え、児童の体験や経験を踏まえた主体的・対話的な学びを工夫します。

児童期における

自覚的な 学び



各教科等の内容を主体的・系統的に学んでいく



時間割に沿った
1日の流れ



主体的・系統的に学ぶために工夫された学習環境



教科書が主な教材

カリキュラム

スタートカリキュラムとは…

小学校に入学した児童が、子供園、幼稚園、保育園などにおける遊びや生活を通した育ちと学びを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくための小学校入門期カリキュラムです。

各園・小学校では、いろいろな交流活動が行われています

● 互恵性のある交流活動を充実させます ●

幼児も児童も成長の機会にします



七夕に招待しよう



給食を体験しよう



秋祭りを楽しもう

5歳児と1年生の交流活動、5歳児と5年生との交流活動など、それぞれのねらいに応じた活動内容と場の設定を工夫することが大切です。



一緒に遊ぼう



ゲームを楽しもう



紙芝居の読み聞かせ

交流活動を積み重ね、内容を工夫することで、日常の教科等の時間が充実します。

交流給食の流れについて(例)

児童の活動



「ようこそ〇〇小学校へ」の会を行う

- ・児童が進行する。
- ・めあてを立てる。
- ・積極的に話しかける。



一緒にグループ活動をする ・リレー・鉄棒・鬼ごっこ・ボール遊び ・わらべうた・輪など

- ・年長児も楽しいと感じることができるよう声をかける。
- ※困ったときはグループで協力して解決させる。



一緒に給食を食べる

- ・各教室に分かれ、交流のグループごとに給食配膳の準備を行う。
- ・給食前の排泄、手洗い、うがいは年長児と一緒に行うようにする。

終わりの会を行う

幼児の活動



- ・出会いを楽しむ。
- ※5年生と出会い、挨拶や自己紹介をしたり、打ち解けたりできるよう援助する。



- ・自分から挑戦してみようという意欲を高める。
- ※教師も、遊びに参加してかわりを支援したり、一緒に楽しんだりする。



- ・5年生と一緒に給食の配膳を試してみる。
- ・小学校の給食を体験し、小学校生活への希望を膨らませる。